

イツ・ア・スモールワールド

～世界はひとつ 共に育ちあう子どもたち～

養正保育所

I 保育所の概要

養正保育所には、現在乳児 96 名、幼児 98 名が入所しています。保育所が大学に近いという立地条件から、現在 11 か国（日本を含む）の子どもたち 24 名が在籍しています。保護者は日本にいろいろな研究や勉強にきているため、2、3 年という短期間の滞在の場合があり途中入所や途中退所されることも多くあります。

韓国や中国、インドネシア、マレーシア、ベトナム、キルギスなどのアジアからだけでなく、アメリカやウクライナ、エジプト、フランスなど様々な地域から来られていて言語や文化も様々です。イスラム教を信仰しておられる大人の女性は、頭から顔や手を隠すヴェールを身にまとうなど服装も独特です。



また、イスラム教を信仰している場合、お祈りをしていないお肉や豚肉は食べないこと、アルコールを摂取しないという点で日本の食事とは大きく異なります。そのため養正保育所では、イスラム教信仰の子どもたちも食べられるような宗教除去食を提供しています。食べられないものを除いたり代替のものにしたりしながら、栄養面に配慮し風味や味が損なわれないよう工夫しながら他児と同じものが食べられるように提供してきました。子どもたちも自然に日本食に触れてきます。手で直接食べ物をもって食べる国もあるので、スプーンの持ち方などの食事の方法も一つひとつ丁寧に伝えてきました。このように食事一つをとってもさまざまな文化の違いがあり、他国の習慣や食文化を受け入れると同時に、日本の習慣や食文化も伝えられるように工夫しています。

II 子どもの様子・関わり・子どもの変化



外国籍の子どもが保育所に入所すると、初めは日本語の理解が難しくコミュニケーションがうまくとれず緊張し、周りの様子をじっとりとみている姿があります。誰も知らない、言葉も通じない環境を嫌がり、両親と離れるときには大泣きをすることもありました。その様子をみてなんとかこちらもその子どもと通じ合いたい、少しでもその不安を取り除いてあげたいという思いがありました。コミュニケーションを沢山とって安心してほしいと思い、保護者に保育所でよくつかう挨拶や生活に必要な言葉の母国語（トイレへ行く、お昼寝をする、ご飯を食べるなど）を教えてもらい、母国語を使いながら会話をしてみると、とても嬉しそうな表情を見せてくれました。コミュニケーションを繰り返すことで、生活に

も少しずつ慣れ、不安な表情も和らぎ笑顔を沢山見せてくれるようになりました。自ら母国語で私たちに話してくれるようになったり、指差ししながらしたいこと、欲しいものなど、自分が何を思っているのかを伝えようとしてくれるように変わってきました。それと同時に、日本語も交えながらゆっくり丁寧にジェスチャー付きで話していくことで、子ども自身も日本語を少しずつ覚え、会話も徐々に増えてきました。日本の子どもたちもその環境が当たり前であり特別なものとしては感じておらず、友だちの中の一人として受け止めています。同じ遊びを楽しもうとジェスチャーをつけながら遊び方を伝えたり、言葉が通じにくい時にはどうしたいのか、どう思っているのかを読み取ろうと顔を覗き込み相手の気持ちや考えを知ろうとしています。



IV 保護者への対応

保護者は、日本語がわからないということで言葉の壁の不安を感じています。例えば、子どもの体調があまり優れない時には、保護者が私たちへ子どもの体調を伝えてくるのですが、日本語が話せず母国語で伝えてくれるのです。私たちも理解できず連携が難しいこともあり、そのような時には、英語を書いたり、ジェスチャーや絵を書くなどなんとか互いに通じ合おうとしています。子どものその日の様子や保育所の活動内容など細かいことを伝える際には、まだまだ難しくもどかしさを互いに感じながらも、信頼関係を築いていけるようにこちらから積極的に関わり、保護者の思いになるべく添えるように努力しています。また、保育所からのおたよりは日本語と共通語としての英語バージョンの2つを作成し、外国籍の保護者には英語版を配布するなど工夫をしています。

VI イッツ・ア・スモールワールド～ ～世界はひとつ 共に育ちあう子どもたち～

養正保育所には、様々な国籍の子どもたちが、国籍に関係なく保育所生活を通して一緒に遊び関わりあって育っていますが、そこで、様々な国の特徴や文化を紹介し、お互いを尊重し相互理解をする機会として『イッツ・ア・スモールワールド～世界はひとつ 共に育ちあう子どもたち～』というイベントを毎年開催しています。今年で4回目を迎え、今ではすっかり馴染みのある養正ならではのイベントになりました。



内容は、パネル展示とワールドステージです。

今年度のパネル展示では、各国それぞれの国旗・地図・国旗の説明・国の特色(名所や食

べ物)・挨拶・数の数え方などを紹介しました。「〇〇ちゃんの国や。こんなが飯食べるんやな。みたことない。どんな味なんだろう。」と興味を持ったり、「ピラミッド見てみたいいな〜。おっきいのかな?」と他国のことを更に知りたいという気持ちがでてきていました。また、各国で行われている、「子どもの健康を祈って行う習慣」や、「新年の迎え方」など保護者からの情報を得てパネル展示を行い、日本を含め各国で行われている伝統行事を紹介しました。

日本の文化を知ってもらうために、地域の主任児童委員の方や養正学区社会福祉協議会の方に来ていただき、おじゃみやあやとり、こま、けん玉などを教えていただきました。このように地域との繋がりを大切にし、また、養正保育所に多くの外国籍の子どもが通っていることや保育所の様子などを地域の方に知っていただく機会にもなりました。

遊びコーナーではカーリングゲーム、メモリーゲームコーナーを設けました。カーリングコーナーでは、日本から各国への距離を体験できるように、国の名前と距離が書いてある日本の位置からテープを貼りカーリングを滑らせたりして自然と国と国の距離を感じていました。メモリーカードコーナーでは、国旗・各国のお金などをカードにし、友だち同士や親子で楽しんでいました。「え?お金も日本と違うの?」と驚いていたり、国の名前をおぼえている子はカードをめくるときに「これは、アメリカの国旗や。」と出てくるカードをひとつずつ言っていました。

イベントの一つであるワールドステージでは、各国の保護者に協力を得て、今まで、二胡の演奏、太極拳(中国)、韓国琴(カヤグム)と韓国の太鼓(チャング)のアンサンブル演奏、ベリーダンスなど各国の文化にふれました。子どもたちは普段なかなか耳にしない音楽などを聴き、新鮮に感じると共に肌身で感じていました。保護者のホーキーポークのダンスでは子どもたちが参加して大変盛り上がっていました。

また、子どもたちが知っている各国の共通の歌を、各国の母国語で保護者に紹介してもらいました。また、子どもたちの大好きなあいさつの歌を、アラビア語、中国語、韓国語、英語、フランス語などのあいさつで子どもたちと一緒に歌いました。色んな国の言葉で歌うことで、言葉も沢山あることを改めて知るきっかけになりました。外国籍の子どもたちは自分の母国語で友だちと一緒に歌を歌ってくれていることをとても喜び、顔を見合わせて笑顔で歌っていました。

普段の保育の中でも、クラスの子どもの国を中心に世界地図や地球儀、世界の物を展示したり、外国籍の子どもの言葉で「おはよう。」の挨拶を言っています。また、運動会は日本独自のイベントでもあり、最初のころは何のことかわからないといった様子でした。しかし、実際に運動会に参加されるとリレーの時には保護者の方が子ども以上に盛り上がって観戦されたり、後日とても楽しかったと言っていました。また、保育参加では親子で一緒に遊ぶときに、凧作りやこま、羽根つきなどお正月遊びや日本の伝統的な

遊びや文化を伝えたり，手遊びやわらべうたをして遊びました。

Ⅶ まとめ



外国籍の子が，何をすればいいのか困っていると「こっちだよ。」と日本の子どもたちが手をそっとひきながら助ける姿が自然とみられたり，外国籍の子が母国語しか話さなかったのに突然「よせて。」と日本語で話してくれた時には，周りの子どもたちも初めて日本語を話してくれたことをみんなで喜び，その喜んでいる姿を外国籍の子も嬉しそうに微笑む姿があります。このように，小さいころから様々な国の子どもたちと触れ合うことで，文化や言葉が違ってても「ともだち」として認め合い，大きな違和感を感じず受け止めあえることができています。

イスラム教の保護者の母親は黒い民族衣装を身にまとっていますが，日本の子どもたちはそれも文化の一つで洋服の中の一つと思っており，怖がったり避けたりすることなく受け入れています。また，国によって食事のマナーも違うことから，その国のマナーのことを伝えることで理解し，食べ方も国によって様々であることを自然に学んでいます。

自分の身の回りには国際色豊かないろいろな友だちがいることを普通のこととして受け止め，お互いの違いを認め合えるような心が育ってほしいと思っています。互いの人権，文化，風習などを理解し尊重しあい，保育に取り入れていることを保護者や地域に伝えていきます。養正保育所ならではの環境の中で育っている子どもたちが，世界に向けた活動を夢見て，成長してくれることを願っています。